

ASBJ Newsletter



目次

1. 企業会計基準等の開発（2012年2月1日～2012年3月31日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第237回～第240回）
3. IASBに対するASBJのコメント（2012年2月1日～2012年3月31日）
4. 第6回IFRSリージョナル・ポリシー・フォーラムに西川委員長が出席
5. 会計基準設定主体国際フォーラム（IFASS）に西川委員長が出席
6. ASBJとIASBの代表者による定期協議（第15回）を東京で開催
7. 「中小企業の会計に関する検討会報告書」の公表
8. ASBJ西川委員長の再任及び基準諮問会議委員の追加選任
9. 第14回基準諮問会議を開催
10. ASBJオープンセミナー2011（第6回～第10回）を開催
11. ASBJオープン・セミナー特別講演「Hans Hoogervorst IASB議長を迎えて」を開催
12. FASFセミナー「有価証券報告書作成上の留意点（平成24年3月期提出用）」を開催
13. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

1. 企業会計基準等の開発 (2012 年 2 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

- 1) 【ED】 [実務対応報告公開草案第 38 号「改正法人税法及び復興財源確保法に伴い税率が変更された事業年度の翌事業年度以降における四半期財務諸表の税金費用に関する実務上の取扱い\(案\)」](#)の公表 (2012 年 2 月 3 日) (コメントの募集は 2012 年 3 月 5 日までとなっています。)
- 2) 【Final】 [実務対応報告第 29 号「改正法人税法及び復興財源確保法に伴い税率が変更された事業年度の翌事業年度以降における四半期財務諸表の税金費用に関する実務上の取扱い」](#)の公表 (2012 年 3 月 16 日)

【凡例】

ED： 公開草案

Final： 会計基準/適用指針等 (最終)

2. 企業会計基準委員会の概要 (第 237 回～第 240 回)

1) [第 237 回 \(2012 年 2 月 2 日開催\)](#)

- a. 実務対応報告公開草案「改正法人税法及び復興財源確保法に伴う税率変更が行われた事業年度の翌事業年度以降における四半期財務諸表の税金費用に関する実務上の取扱い(案)」【公表議決】
- b. 退職給付 (ステップ 1) の検討状況
- c. 収益認識専門委員会における検討状況
- d. 包括利益の表示の取扱い
- e. 連結・特別目的会社専門委員会における検討状況

- a. 「改正法人税法」及び「復興財源確保法」の公布に伴い、複数の税率が存在すること

となりますが、これに対応した実務対応報告の公開草案の公表議決が行われました。

- b. 退職給付会計ステップ 1 の適用時期についての検討が行われました。

今回の検討再開に際しては、適用時期の 1 年延長の方向性を示した平成 23 年 6 月の委員会からさらに時間が経過していることから、改めて、1 年程度の適用時期を延期するという事務局案の検討が行われました。

- c. IASB 公開草案に対するコメントの検討が行われました。
- d. 単体財務諸表における包括利益の表示の検討が再開されました。

包括利益の表示は、連結財務諸表では既に行われていますが、単体財務諸表での取扱いは、平成 22 年 6 月の基準公表後、1 年後を目途に判断するとしていました。

現段階では、単体財務諸表での包括利益を表示することに市場関係者のコンセンサスが得られておらず、委員会では、単体財務諸表で表示を行わない場合の派生論点として、①任意表示の可否、②注記情報の必要有無の考えられる対応が検討されました。

注記情報については、利用者のニーズはあったとしても、株主資本等変動計算書で開示されている情報で代替できることから否定的な意見が見られました。

- e. IFRS 第 10 号経過措置ガイダンスに係る公開草案に対するコメントの検討が行われました。

2) [第 238 回 \(2012 年 2 月 17 日開催\)](#)

- a. 退職給付 (ステップ 1) の検討状況
- b. 収益認識専門委員会における検討状況

- a. ①単体財務諸表において、任意で未認識項目の一括負債計上を認めるか否か、②単

体財務諸表において、どのような追加開示を求めるかの検討が行われました。

①について、事務局では、他の関連諸制度へ影響を与える可能性があることやコンセンサスが十分に得られていないことから、任意適用を認めない方向で考えています。

②については、連結財務諸表と異なる処理をしている旨の注記のみに留める方向で考えられています。

- b. IASB 公開草案「顧客との契約から生じる収益」に示された質問事項に沿ってコメントの検討が行われました。

3) 第 239 回 (2012 年 3 月 2 日開催)

- | |
|------------------------|
| a. 退職給付 (ステップ 1) の検討状況 |
| b. 包括利益の表示の検討状況 |
| c. 収益認識専門委員会における検討状況 |

- a. 適用時期の検討及び文案の検討が行われました。

適用時期に関しては、第 237 回委員会で検討が行われていますが、そのうち、退職給付債務及び勤務費用の計算方法に係る適用時期については、委員から実務上の対応が難しい会社が出てくる可能性があるとの指摘があり、更なる検討が行われました。

更なる適用時期の延期を行うことは、早期適用の期間が長くなり、比較可能性の問題を含むことから「対応が難しい場合に所定の注記を条件に平成 27 年 4 月 1 日以後開始する事業年度の期首からの適用を認める」という事務局案の方向で検討が進められました。

- b. ①単体財務諸表における包括利益の任意表示、②包括利益に関する情報の注記、③連結財務諸表非作成会社の対応、④包括利益計算書の名称変更の各論点の検討が行われました。

①及び②については、これを認めない、不要であるといった意見が多くを占めました。

③については、連結と同様の財務諸表を作成させるべきとの意見もあるものの、制度上の問題を含み、短期間でこれを検討することは難しいとの結論に至っています。

④については、IASB が包括利益計算書の名称変更を行ったことを発端とした論点ですが、委員の中でも様々な考えがあり、結論に至っていません。

- c. 収益認識に関する IASB 公開草案に対するコメントの検討が行われました。

4) 第 240 回 (2012 年 3 月 15 日開催)

- | |
|---|
| a. 実務対応報告「改正法人税法及び復興財源確保法に伴い税率が変更された事業年度の翌事業年度以降における四半期財務諸表の税金費用に関する実務上の取扱い(案)」【公表議決】 |
| b. 退職給付 (ステップ 1) の検討 |
| c. 包括利益の表示の検討 |
| d. 企業結合(ステップ 2)の検討 |
| e. 連結・特別目的会社専門委員会における検討 |

- a. 公開草案に寄せられたコメントは 1 件のみで、事務局案に対する特段の異論もなく、公表の議決が行われました。

- b. 退職給付信託についての論点を中心に検討が行われました。

公開草案で開示拡充の対象としていた退職給付信託について、他の年金資産と区別して開示することを求めないことでどうかという専門委員会の提案を受けてのものであります。

退職給付信託資産と他の年金資産とのリスクの違いや、デュープロセスといった観点から、委員会での意見は割れています。

- c. 名称変更に関する検討が行われました。

委員の意見は、現状維持と IFRS 変更に合わせる意見に二分され、それぞれの考え方が示されたものの、結論には至っていません。

- d. 企業結合（ステップ 2）のうち、のれんの償却に関する取扱い以外の論点については、改正を行うか別途検討することとしていましたが、以前の検討からかなりの時間的インターバルがあり、検討当時から、委員の交代も行われていることから、改めて、それぞれの論点についての説明と確認が行われました。
- e. IFRS 第 10 号の経過措置の改正に係る公開草案への対応が検討されました。

3. IASB に対する ASBJ のコメント (2012 年 2 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

- 1) [IASB 改訂公開草案「顧客との契約から生じる収益認識」に対するコメント](#)を提出（2012 年 3 月 13 日）
- 2) [IASB 公開草案「経過措置ガイダンス（IFRS 第 10 号の修正案）」に対するコメント](#)を提出（2012 年 3 月 21 日）

4. 第 6 回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムに西川委員長が参加

2012 年 3 月 26 日と 27 日、マレーシアのクアラルンプールで第 6 回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムが開催されました。今回のフォーラムでは、「収斂とその後、変化への道筋」がテーマとされ、会計基準設定主体、規制当局や監査事務所関係者等が意見を交わしました。

マレーシアの会計基準委員会 (MASB) が主催した今回のフォーラムには、22

カ国と 10 の国際機関から約 140 名の参加者が集まりました。IASB からは Hans Hoogervorst 議長、Ian Mackintosh 副議長、鶯地理事、Prabhakar Kalavacherla (PK) 理事、張為国理事他が、IFRS 財団からは Jeffrey Lucy 評議員他が参加しました。日本からは、富士通 湯浅 IFRS 推進室室長、金融庁 企業開示課 園田課長補佐が参加した他、ASBJ から、西川委員長、加藤副委員長及びスタッフ 1 名が参加しました。

冒頭、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) Kevin Stevenson 議長、マレーシア証券取引委員会 Tan Sri Zarinah Anwar 委員長からのスピーチでフォーラムが幕を開け、続けて、IFRS 財団及び IASB 関係者より、IFRS 財団の戦略や IASB における個別の基準開発の動向について説明がされました。

その後、次のパネルディスカッションが行われ、フォーラム参加者との質疑応答や意見交換も併せて行われました。

- ・「IFRS に関する国際的な規制当局の取組み」(司会：IASB PK 理事、パネリスト：証券監督者国際機構 (金融庁 園田氏)、金融安定化理事会、オーストラリア財務報告評議会)
- ・「IFRS の整合的な適用と執行」(司会：IASB 鶯地理事、パネリスト：IFRS 解釈指針委員会、中国証券規制当局委員会、E&Y、PwC)
- ・「グローバルに受け入れられた会計基準としての IFRS の妥当性」(司会：IFRS 財団 Jeffrey Lucy 評議員、パネリスト：マレーシア UEM グループ、富士通 (湯浅氏)、香港公認会計士協会)
- ・「IFRS への移行」(司会：カナダ会計基

準審議会 Tricia O'Malley シニア・アドバイザー、パネリスト：IFRS 財団、韓国国民大学、韓国 KB 金融グループ、マレーシアホンリョン銀行)

- ・「報告企業の区分」(司会：マレーシア会計基準委員会 Mohammad Faiz Azmi 委員長、パネリスト：ニュージーランド外部報告委員会、香港財務報告委員会、インドネシア財務会計基準委員会)

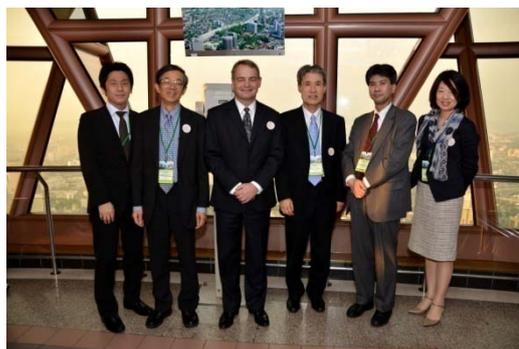
また、「XBRL への移行」、「IFRS の開発と監査への影響」に関する比較的小規模なセッションも設けられました。今回のフォーラムでは、国際的或いは各国レベルにおいて行われている IFRS の整合的な適用に向けた取組みについて情報共有がされた他、各当事者の協力・連携が重要であるとの認識が共有されました。次回の会合は、2013 年に香港で開催される予定です。

5. 会計基準設定主体国際フォーラム (IFASS) に西川委員長が参加

2012 年 3 月 29 日及び 30 日の 2 日間にわたり、マレーシアのクアラルンプールにて会計基準設定主体国際フォーラム (International Forum of Accounting Standard Setters: 略称 (略称: IFASS)) が開催されました。英国、米国、カナダ、フランス、ドイツ、オーストラリア、中国、韓国、インド、シンガポール等計 29 ヶ国・地域の会計基準設定主体と IASB や EFRAG 等の関係機関から総勢 61 名の参加があり、ASBJ からは、西川委員長、加藤副委員長、小賀坂主席研究員、井坂シニアプロジェクトマネジャー、吉岡研究員が参加しました。

本フォーラムは、各設定主体が取り組んでいる研究プロジェクトに関する議論や、IASB の基準開発へのインプットやサポー

トを行うことを目的とするものであり、年 2 回、春と秋に定期的開催されます。なお、前回までは各国基準設定主体 (NSS) 会議の名称で呼ばれていましたが、今回から会議体の名称が IFASS に変更されています。



今回は以下のテーマについて議論が行われました。

	議題	担当
3 月 29 日 (木)		
1	IASB と IFRS 財団の現況	カナダ
2	各地域グループからの報告	AOSSG EFRAG GLASS PAFA
3	IASB アジェンダ協議	IASB
4	基準設定主体のモデル	オーストラリア
5	IFRS に関する米国の状況報告	FASB
6	各国の時事的な問題	—
	(1)法人所得税	EFRAG
	(2)共通支配下における企業結合	EFRAG
	(3)開発費	ASBJ
7	IFASS の運営について	オーストラリア
8	ベストプラクティス文書	フランス IASB
9	IASB 適用後レビュー	IASB
10	影響度分析	EFRAG
11	公的セクターの概念フレームワーク	IPSASB
12	会計単位	カナダ
13	各国の時事的な問題	—

(1)のれんの事後測定	イタリア
(2)継続企業概念	英国
(3)営業利益の表示	韓国

6. ASBJ と IASB の代表者による定期協議（第 15 回）を東京で開催

ASBJ と IASB の代表者は、2012 年 4 月 2 日に、東京で会合を開催いたしました。この会合は、ASBJ と IASB が定期的に行っているもので、今回で 15 回目となりました。

今回の会合では、両者は以下の点について議論しました。

- ・ IASB と米国財務会計基準審議会（FASB）との間のコンバージェンスプログラムの残りの項目の完了に向けた作業について
- ・ IASB の将来のアジェンダに係る協議について（日本の関係者からの意見を含む）
- ・ IFRS 財団の評議員会で現在検討されている、IFRS 解釈指針委員会の継続的な見直しについて
- ・ ASBJ と IASB の今後の関係を含む、IASB と各国の会計基準設定主体との間のより緊密な協調関係のあり方について

ASBJ と IASB は、高品質でグローバルな会計基準の開発に寄与するため、継続的に緊密な連携を図ることを再確認しました。次回の会合は 2012 年下期にロンドンで開催する予定です。

7. 「中小企業の会計に関する検討会報告書」の公表

中小企業関係者等が主体となって設置された「中小企業の会計に関する検討会」は、去る 2 月 1 日に公表した「中小企業

の会計に関する基本要領」（以下「中小会計要領」という。）を広く普及させ、その活用を促進するための方策について検討を行い、今般、普及・活用策を含めた最終報告書として「中小企業の会計に関する検討会報告書」を公表しました（中小企業庁及び金融庁は共同事務局）。

中小企業関係者、金融機関関係者、会計専門家等が一丸となって「中小会計要領」の普及・活用に取り組むことで、中小企業が「中小会計要領」に従った会計処理を行い、その結果、中小企業の経営力の強化や資金調達力の強化等に繋がることを期待されます。

なお、本公表は、日本商工会議所（<http://www.jccci.or.jp/>）、中小企業庁（<http://www.chusho.meti.go.jp/>）、金融庁（<http://www.fsa.go.jp/>）においても同時に行っています。

8. ASBJ 西川委員長の再任及び基準諮問会議委員の追加選任

FASF では 2012 年 3 月 21 日に開催した理事会において、2012 年 3 月 31 日をもって ASBJ 委員の任期満了を迎える西川郁生氏につき、以下のとおり決議しました。

① 1 期 2 年の任期にて ASBJ 委員を再任（定款第 59 条第 1 項ただし書の規定に基づく 2 期目）

② ASBJ 委員長職の再任

なお、西川郁生氏は、2012 年 4 月 1 日以降、非常勤となります。

また、同理事会において、定款第 64 条第 4 項の規定に基づき、加藤勇一郎氏（東レ株式会社 経理部長）を基準諮問会議委員として追加選任することを決議いたしました。任期は 2012 年 3 月 21 日から 2013 年 3 月 31 日までとなります。

9. 第 14 回基準諮問会議を開催

2012 年 3 月 7 日、第 14 回基準諮問会議が行われました。

会議では、まず ASBJ/FASF のガバナンスについて事務局より説明が行われ、適正手続監督委員会について意見交換が行われました。

次に ASBJ の最近の活動状況について事務局より報告がなされ、会計基準の開発状況、IASB「アジェンダ協議 2011」への対応等について意見交換が行われました。

10. ASBJ オープン・セミナー2011(第 6 回～第 10 回) を開催

ASBJ/FASF では、2010 年度より、国際的な会計の動きを迅速にフォローできる ASBJ ならではの最新情報の提供を行うことで、FASF 会員へのサービスを向上させるために、“ASBJ オープン・セミナー”を開催しました。

2011 年度下期も引き続き、全国証券取引所の協力も得ながら下記会場にて開催していました。

回	開催月	開催地	会場
6	3月6日	東京	メルパルクホール
7	3月7日	名古屋	ダイテックサカエ
8	3月9日	大阪	大阪銀行協会ホール
9	3月13日	札幌	札幌証券取引所会議室
10	3月16日	福岡	福岡天神ビル

東京会場では、昨年 7 月に IASB 理事に就任された鶯地隆継氏より「IASB の今後の 10 年と日本企業への影響」についてご講演いただくとともに、西川 ASBJ 委員長から会計基準を巡る最近の動向、都 ASBJ 常勤委員から昨年 11 月に公表され

た IASB 改訂公開草案「顧客との契約から生じる収益」の概要についての解説などを行いました。



11. ASBJ オープン・セミナー特別講演「Hans Hoogervorst IASB 議長を迎えて」を開催

2012 年 4 月 3 日、ASBJ との共同会議に参加されるため来日した Hans Hoogervorst IASB 議長を迎え、ASBJ オープン・セミナー特別講演を東京イイノホールで開催しました。



まず Hoogervorst 議長から最近の IASB の活動や今後の見通しについて講演され、次に Stephen Cooper IASB 理事から作業計画、アジェンダ協議、金融商品、保険契約、投資企業について、Henry Rees IASB アソシエート・ディレクターから収益認識、リースについてを、それぞれ IASB の個別プロジェクトの解説行っていました。

当日は午前中の開催であったにもか

かわらず、ホールの定員 500 名に近い方のご来場をいただきました。

12.FASF セミナー「有価証券報告書作成上の留意点（平成 24 年 3 月期提出用）」を開催

FASF では、4 月 2 日より東京（3 回）、大阪、名古屋、福岡、札幌、仙台、金沢、広島、高松の全国 9 都市にて 11 回にわたって「有価証券報告書の作成要領（平成 24 年 3 月期提出用）」のセミナーを開催しました。当セミナーでは、併せて金融庁総務企画局企業開示課から「ディスクロージャー制度をめぐる最近の動向等」についての説明が行われました。

セミナーの参加者は、延べ約 4,000 人と関係者の関心の高さを伺わせる、盛況なものとなっています。



13.お知らせ

1) 刊行物のご案内

- ① 機関誌「季刊 会計基準」第 36 号
(2012 年 3 月 15 日刊行)

【主な内容】

- ✓ 特集：第 3 回アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) 会議レポート
- ✓ Accounting Square：“グローバルな会計基準への道筋” … Hans Hoogervorst IASB 議長
- ✓ Chairman’s Voice：“人材開発支援プ

ログラムの開始にあたって”…西川郁生 ASBJ 委員長

※ご購入は[こちら](#)。

※第 30 号より、FASF 会員の皆様は、季刊会計基準に掲載される記事が[ホームページ（会員専用サイト）](#)よりご覧になることができます。どうぞご利用ください。

② 2011 年 5 月・6 月公表 国際財務報告基準(IFRS) 特別追補版の刊行 (2012 年 1 月 13 日刊行)

本書は、2011 年 11 月に刊行した『国際財務報告基準 (IFRS®) 2011』の原書（英語版）の発行後に IASB が公表した、新規及び改訂版の基準の日本語訳を、一冊に収録したものです。

IFRS の日本語訳は、IASB が毎年発行する英語版に基づき、2009 年以降毎年刊行していますが、2011 年に公表された新基準及び改訂基準は分量が多く内容も重要であるため翻訳を早期に利用したいというニーズを考慮し、2011 年版の日本語訳を補完するものとして、2012 年版の日本語訳に先行する形で、2011 年公表の新基準及び改訂基準のみの日本語訳をまとめた本書を刊行することとしたものです。

※ご購入は[こちら](#)。

2) ASBJ Web セミナーのご案内

ASBJ/FASF では、FASF 会員の皆様が ASBJ の開発する会計基準や ASBJ/FASF の活動をより分かりやすく効率的に理解していただくために、ASBJ Web セミナーをホームページ（会員専用サイト）で提供しています。最近では、3 月 6 日に実施された第 6

回 ASBJ オープン・セミナー2011 (掲載は2012年6月30日まで)及び4月3日に開催されたASBJ オープン・セミナー特別講演「Hans Hoogervorst IASB議長を迎えて」(同2012年7月31日まで)の様態を掲載していますので会員の皆様はどうぞご利用ください。

“ASBJ Newsletter” (第26号)

2012年4月20日発行

発行：企業会計基準委員会／

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20階

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail : planning@asb.or.jp

Fax : 03-5510-2712